

1. マクロ経済学の基本

マクロ経済で習うこと

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	生産要素 資本、労働	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

1. 経済学とは？人々がどうすれば豊かになるのかを考える学問

サミュエルソンの定義

「経済学とは、

- ① 複数の代替可能な希少な生産資源をいかに使うか
- ② 時間を通じて種々の製品をいかに生産するか
- ③ 現在と将来の消費のためにどのように分配するか

について、貨幣を使用し、あるいは使用せずにいかなる選択を行うかの学問」

ミクロ経済学（微視的） 森を歩いて木や草を調べる。虫の目。

マクロ経済学（巨視的） 航空写真で森をみる。鳥の目。

アドバイザー面談に類するものがミクロ的アプローチ。学生一人ひとりの成績の良し悪しがそれぞれ把握できる。ただ、「今年の学年は昨年の比べて全体としてどうですか？」と聞かれても、全員面談をしないと（したとしても）分からない。

マクロ的アプローチは、成績が悪い学生、良い学生いろいろいるが、平均としてどうかを考える。たとえば、昨年度と今年度のテストの平均点を比較して上昇していれば、今年度の学生は平均的に見て優秀だということができる。「平均点」に当たるものが、経済統計となる。

失業者に対して、どのようにすれば就職できるかを考えるのがミクロ的アプローチ。就職できる職場そのものを増やす方法を考えるのがマクロ的アプローチ。不況とは椅子取りゲームの椅子がどんどん減っていく状態。どんなにがんばっても失業してしまう人が出る。椅子を増やしていこうとするのがマクロ的アプローチ。

3. 需要、供給、市場

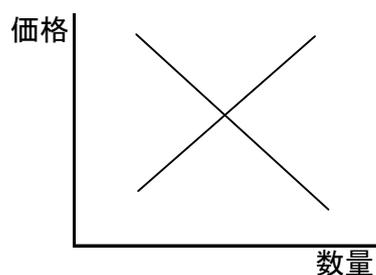
需要＝人間の欲望から発する おいしいワイン、楽しい食事、優れた音楽

供給＝その欲求を満たすための努力

市場＝需要する人と供給する人がモノを交換する場所

価格＝需給の状況を教えてくれるシグナル

均衡＝みんなが満足する点



- ・パン屋を始めるとする。いったいいくらで売ればいいのか？
交点が2個 100円の場合から考える
- ・アダムスミス「水とダイヤモンドのパラドックス」
- ・「ロビンソンクルーソー」の世界との違い
1人の場合は市場はいらない。2人の場合、…
- ・何でも、需要、供給に分けて考えるのが経済学 教育、結婚、出産…

4. 生産活動とその分配

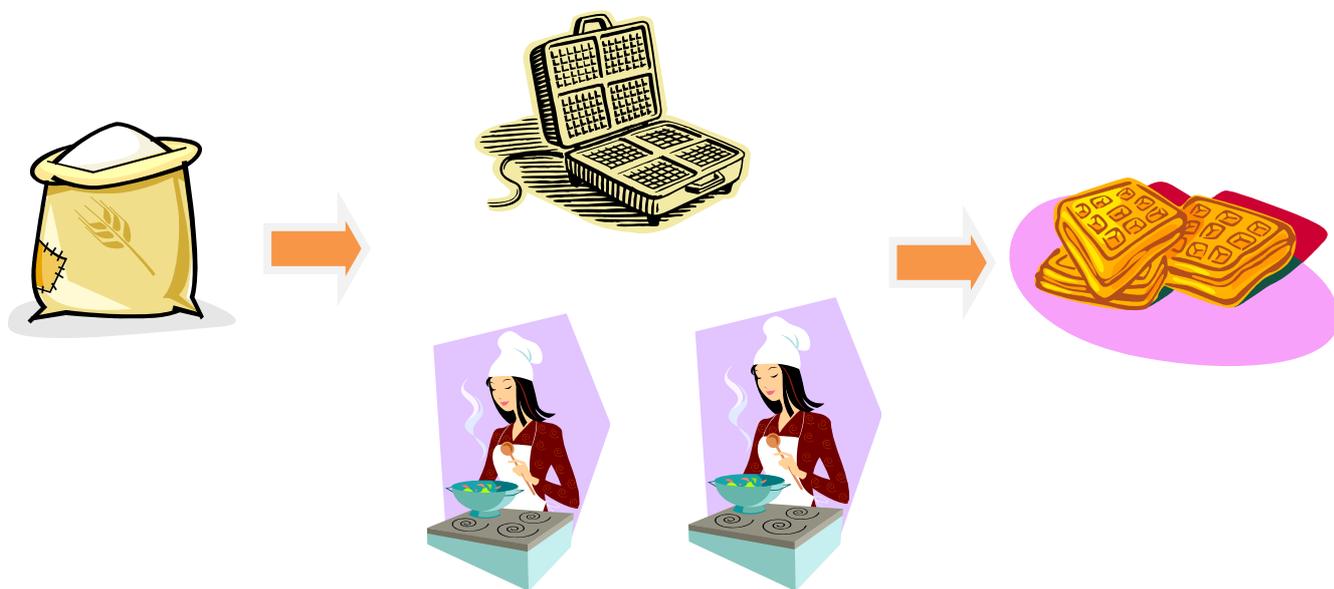
生産活動＝モノやサービスを供給すること

() =生産活動に必要なもの。

一般的に

() () ()

工業では特に資本と労働が重要。
模擬店でワッフルを作る時何が必要か。



資本→大量のお金。

産業分類

- 第一次産業 ()
- 第二次産業 () ()
- 第三次産業 () ()

5. マクロ経済学での需要、供給、市場

①生産物市場 モノ

価格 物価（消費者物価指数など）

生産 GDP（国全体の生産）

需要曲線 消費、投資

供給曲線 生産要素→生産するのに使うもの。労働力、資本、土地など。

②貨幣市場 カネ

需要 貨幣需要

供給 貨幣供給

④ 労働市場 ヒト

需要 労働需要（企業側）

供給 労働供給（家計側）

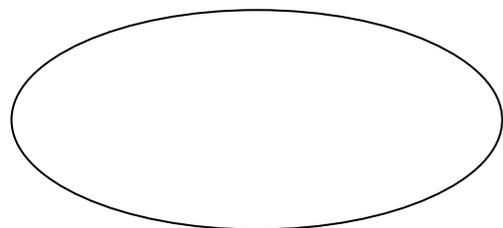
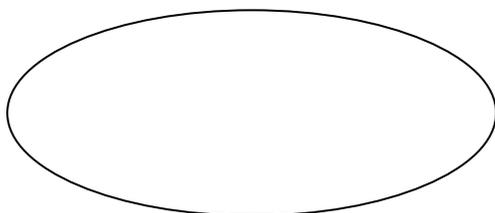
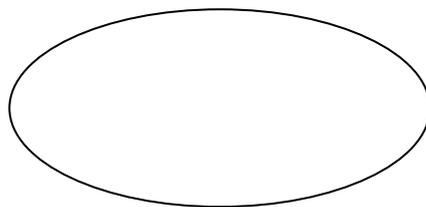
6. 経済主体（経済学の登場人物）

主体＝ある同じ性質をもったグループ

家計 消費する主体

企業 生産する主体

政府 国の代表者



7. 政府の必要性

- ①「市場の失敗」公園、道路、環境問題
- ②「再分配」 所得の違いは努力か運か？
- ③「景気」の調整

マクロ経済学の関心事

- ・失業
- ・インフレ スタグフレーション（泣きつ面に蜂）

★**財政政策**は、減税や公共投資など、政府がお金を使う政策。

★**金融政策**は、金利を動かしたり、お金の供給量を変えたりする政策。

8. 経済学の仮定

経済学の理想＝社会全体を一つの法則で表したい。

→A さんが 10000 円もらったとき、いくら使って、いくら貯金するか（さらには何をを使うか）を理論的に説明したい。しかし現実には人々の行動は読みにくい…

そこで、モデルケースを作る。

→平均的な人（または多くの人）が行動するような法則を作り出す。

分析の基本

家計＝制約された所得の中で、効用を最大化する

企業＝利潤を最大化する

結婚の経済学

需要＝夫 供給＝自分 市場＝さまざまな場所

与えられた制約（自分の魅力）の中で効用（幸せ）を最大化するように相手を決める。